

愛称通りを歩く⑨

高橋夜店通り

(清澄通り～三ツ目通り)

かつて、小名木川に架かる高橋のたもとに定期船(銚子一両間)の船着場があり、深川の繁華街として栄えた町「高橋」。戦前を知る人たちの記憶をたどると、講釈場の永花亭、映画館の江東電気館、芝居小屋の高砂座、日没から夜の12時頃まで開いていた夜店の賑わいがよみがえります。

毎朝、行徳や砂村から野菜などを売りに来るおばちゃんたちは、高橋の船着場を起点に、東京中行商にてかけ、夕方には夜店通りで日用品を買って帰るのが常だった。

たそうです。

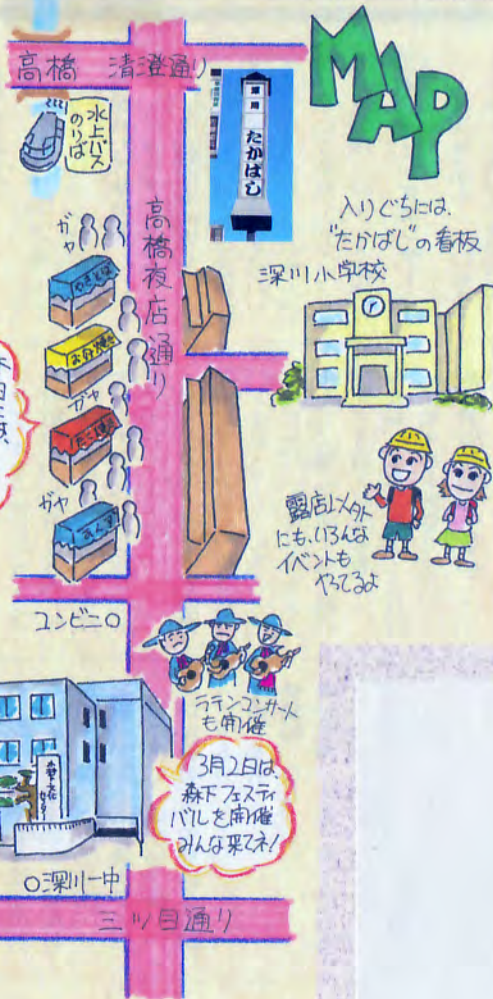
「当時の賑わいを復活させた」と高橋商店街振興組合が昭和48年にはじめたのが休日の歩行者天国。現在は東京都の「コミュニティ商店街」に指定されています。

「商店街の愛称もファミロードから深川たかばしになりセールや露店のほかに女性綱引き大会など多彩なイベントも開催しています。昔の夜店通りの名前は懐かしいですね」と廣田保男会長。

高橋夜店通りには森下文化センターもあります。2階には多目的

ホールのはかに郷土資料室、伝統工芸展示室があり、毎月第一、第三日曜日の午後1時から区無形文化財保持者による職人の「技」の実演と即売会も開かれています。

3月2日(日)には森下フェスティバル開催。一坪ショップをはじめ親子で楽しめるイベントや講習会など盛沢山です。前夜祭は午後7時より「トリオ・ロス・ペペス」のラテンコンサート(千円)も開催します。ぜひ、お楽しみください。



▲「深川たかばし」休日の賑わい